姉妹町村

美浦村のホット情報

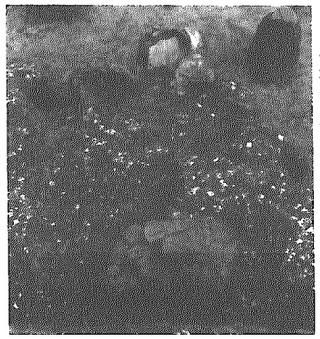
縄文の宝庫 陸平貝塚の発掘調査を実施

昨年の十一月から十二月にかけて、美浦村教育委員会の手によって陸平貝塚の発掘調査が行われました。発掘は昭和六十二年から行われていますが、貝塚の多くは発掘されないままです。

今回は貝塚北側部分一七〇平方メートルの発掘調査を実施しました。そこからは住居跡、木の実を保存する貯蔵穴、食べた残りの貝殻を捨てた貝層など縄文時代の遺構が重なり合うように密集して発見されました。

また、数多く出土した縄文土器は今からおよそ四千～四千五百年前のもので、その造型美には目を見張るものがあります。今後、分析が進めば陸平縄文人の食生活など様々な情報が分かってくることでしょう。

今回の発掘は、未だ陸平貝塚には膨大な縄文人たちの生活跡が眠っていることを、改めて認識させてくれるものでした。



海外旅行の安全対策 渡航前に現地情報の入手を

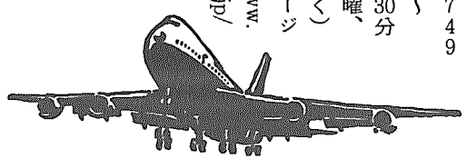
観光や仕事で海外に出かける日本人は、年間約一、六七〇万人に上っています（平成8年）。こうしたなか、渡航先の国々で事件や事故に遭う方が増えています。

海外の大使館などに報告されたものだけでも、昨年は一五、二六一人が事件・事故などのトラブルに遭い、このうち四四四人が亡くなっています（疾病等も含む）。

海外でのトラブルを避けるには、①渡航前に現地の治安状況などをよく調べ、危険に対する認識を持つこと、②危険（内乱、テロ、凶悪犯罪）が予測される国・地域への渡航を避けることが必要です。

外務省の海外安全相談センターでは、海外各国の安全性や旅行の注意点などについて情報を提供しています。海外に出かける前に、ぜひ渡航先の安全確認を行ってください。

海外安全相談センターでは、電話や手紙（返信用の切手・封筒を同封する）による問い合わせを受け付けているほか、資料の閲覧や安全情報の検索ができます。



▼問い合わせ
海外安全相談センター
〒100－8919 東京都千代田区霞が関2－2－1
☎03－3581－3749
午前10時～午後5時30分（土・日曜、祝日を除く）
・ホームページ http://www.mofa.go.jp/mofaj/

耳よりな情報

～広域情報ネットワーク～

〈新潟市〉

新潟県立自然科学館 3月15日(日)リニューアルオープン

3月14日(土)まで改修工事のため臨時休館をしていますが、3月15日(日)からリニューアルオープンします。太陽光や風の新エネルギーを利用した装置（3／15～）、江戸時代に作られた望遠鏡（3／21～4／19）などの展示のほか、土・日曜日には、いろいろな教室が開催されます。3月16・23・30日(月)は休館日です。

▶問い合わせ
県立自然科学館 ☎283－3331

〈小須戸町〉

ボケ展・雪割草展

◎日本ボケ展 3月6日（金）～8日（日）
午前9時～午後5時（2日目は午後4時まで）
会場は小須戸町民体育館

◎県雪割草展 3月7日（土）～8日（日）

◎町雪割草展 3月14日（土）～15日（日）
県・町両展とも午前9時～午後5時
会場は小須戸町花とみどり館

▶問い合わせ 小須戸町役場産業課
☎0250－38－3111

1月資源ごみ収集実績

空きびん	8.0 t
空き缶	5.4 t
古紙	17.4 t
合計	30.8 t

3月資源ごみ収集日

地区	収集日
横越・川根谷内	3日(火)
	17日(火)
その他の地区	5日(木)
	19日(木)

ふる里物語 町史編さんだより ㊷

中世横越の水運業者

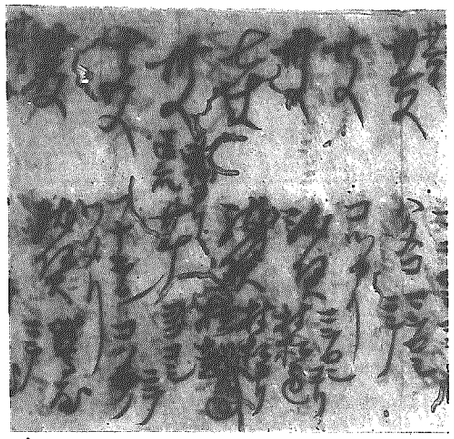
時代区分上、十二世紀から十六世紀を中世と区分します。鎌倉時代から安土・桃山時代という表現が、なじみがあるかもしれません。この時期の横越について記した文献史料はほとんどありません。「横越」という地名がいつ頃から使われたかはっきりしませんが、史料上の初見は『永禄六年北国下り遣足帳』です。永禄六年は一五六三年ですから、中世後期には「横越」という地名が使われていたと推測されます。この史料は京都醍醐寺の僧侶が東北・北陸を旅した際のいわば、旅行中の出納帳です。この史料から中世の横越の姿を追ってみることにします。

永禄六年というと、日本社会は戦国時代、織田信長や徳川家康が活躍した時期で、新潟県では上杉謙信の時代です。有名な川中島の合戦もこの頃です。戦国激動期に京都醍醐寺の僧侶が旅の途中、永禄七年六月に横越に立ち寄ったのです。

史料を読むと、醍醐寺の僧侶が村松から横越まで陸路を利用し、「横越」から水路と陸路を利用し、「対馬屋」まで行ったことが記されています。「対馬屋」は新潟市の津島屋に比定されます。「フナチン コクラノワタリ」とありますが、「ワタリ」は醍醐寺僧侶が利用した水運業者でしょう。「コクラ」はその集団の拠点となる地名でしょう。それが現在の何処に比定できるかは判りません。伝承によると、横越軍治という人物がいて（十一世紀頃と推定）、その横越家が「水治に巧み」で、阿賀野川沿いに要害を構えていたということですから、推測するに、中世横越に水運業を営む大きな勢力があり、「ワタリ」と呼ばれる非農業民を束ねていたのではないでしょうか。

中世の横越は金津保という国衙領域（公領）に含まれていました。阿賀野川の氾濫原にある地域は自然堤防上に集落が形成されていたでしょうが、農耕地としては決して安定していたとは言えず、となると、「よこごし」という地名の由来は、「川を横断する、川を越える」ということにあると考えられるので、中世の横越の人々は阿賀野川の水運業を中心に生活していたのではないでしょうか。保という国司支配地域が、河川交通の要衝に存在していたことが多いことを考え合わせると、金津保内の横越は、阿賀野川を利用する人々や物資が行き来する河川交通の要地で、「ワタリ」と呼ばれた人々の活躍の場であったのでしょう。

（中世担当 中川浩宣）



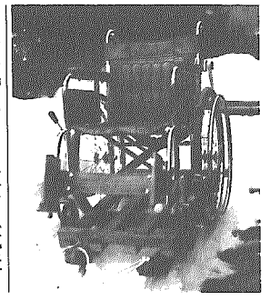
廿六日
廿六文 ハタコ マヨロシ ニテ
廿文 、 コツカイ
廿文 駄賃 マヨロシ 村松迄
七十文 駄賃 村松ヨリ 横越迄
廿文 宿ヨリ 送衆 サケヨココシ ニテ
十五文 フナチン コクラノ
ワタリ
廿五文 駄賃 対馬屋 マテ

永禄7年6月26日に僧侶が横越を通過した際の記述（国立歴史民俗博物館所蔵『永禄六年北国下り遣足帳』より転載＝写真）およびその釈文

横越町農業経営者会議の善意 「のぎくの家」へ

二月十二日、各地区の農業経営者で構成された横越町農業経営者会議（会長 立川幸一 会員二十一名）より視覚重複障害者施設「のぎくの家」（代表 小野塚テイ子）に対して、昨年の横越町農業祭でのチャリティ募金三万円が寄付され、施設では「みなさんのあたたかい善意を大切に使わせていただきます」と大変感謝していました。

この活動は、のぎくの家の活動に対して少しでもお役に立てればということで始まり、今年で五回目。農業祭の催し物である「よこごし鍋無料サービスコーナー」で来客者の善意を募ったものでした。



ご厚志に感謝

デイサービスセンターでは、今年の大雪で利用者を車椅子に乗せて運搬するのに大変苦労し、何か良い方法はないかと思案していたところ、藤山の皆川長男さん宅に昔（三十年前）のソリがあるからそれに車椅子を乗せて引っ張ったらどうかということで、いろいろ細工をして寄贈してくださいました。大変ありがとうございました。